十日夕刊

磐城新聞

休刊　大祭、第一、第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢〕
廣告料〔二行五十錢、指定廿錢增〕
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

信神する者が迷信？　易を見る者が迷信？

古カヂ町　青山而象

是は無線電信の受信器と同然である。さて神木はらう木に現れて來たが之を解するの辭書がなければならぬこの辭書を易經と申します。故に筮竹を以て神意を伺ふの時には滿腔の誠意をこめ其間はんとする事件を具に申上る其時に用ふる力を八分とし他の二分は活斷に使用するのである。而て此易經によつて今伺を立てた神意の那邊に存するか其吉凶悔吝は立ろにわかるのであります。

かくの如く易術は神人間交通の道術であるから何にも易者と言ふ一部の者の占有物ではない何人と雖も精意誠心易術に因て神意を伺ふについては神は必ず應答をし下さる。

併し社會は分業であるから其道に從事する易者の許に行き神意の取次を依頼したからとて迷信なりと其語弊は何れにありや。

世間神佛を信仰するの諸氏よ諸氏は朝夕神前に禮拜し信仰しておるが今茲に開業開店するとか此商法は損益は何うとか或は戀愛の吉凶とか神佛のお告を聞きしこともありや神は必ず憐愍を垂れさせ給ふに相違なきも如何せん之を知ること能はず郵便の片便りの如く只默禱し退くより外なきであらふと思ふ。中には神官僧侶の如く數多の信徒を有する方は易術を習得し此時易術に因て神慮を伺ひ奉り其吉凶悔吝を信徒に知らしむることこそ一層神に事ふる諸氏の任務ではないか。

然るに易は反對なるものの如くに心得居らるゝ方は誠に奇怪と言はねばならぬ地方に於ける天理教信者諸氏は事あれば必ず易術に因て神意を伺ふのであるが是は神に奉仕するもの當然と言はねばならぬ中には俺は宗教家であるから易は要らなしなど豪語するものゝあるは是眞に神の存在を知らざるの徒である。

以上述ぶるが如く易は三千幾百年の昔亞細亞に傑出せる伏犧文王周公孔子の四聖人が畢生の腦力を搾つて發明せられた寶典である而て此術によつて神と人との間の交通の道を開かれたことは申樣のない難有い極みではないか。然るに近代無線電信と言ふもの發明せられ甲處と乙處に機械を据付け電氣の應用で中間に線なくして其用件の相通することを見てアッと驚愕したではないか。然るに幾千年の昔已に神人間の無線電信を發明して置かれたことを思ふたならば其感想や如何ん幾度驚愕を喫せざるを得まい。かくの如き寶典を指して迷信なりと言ふの徒は神をも恐れず天命を恐れざるものと言はざるを得まい。

終に臨み易占に從事するものは聖人發明の主趣に背かず專ら經書を講究し天命に順據し是等迷信の語を一掃されんことを望む。

明日の吉凶

新暦八月十二日
舊暦六月廿[illegible]日

▲一白　金線ある如く見へても手中に止まり難し▲二黑　義理のため知りつゝも不利に陷る事あり▲三碧　一時は良けれども久しからずして憂ひとなる▲四綠　今日の地位に安んじ心を動かさぬが安全なり▲五黄　平和なれども何となく心の晴々とせざる日▲六白　一歩は一歩よりも勢ひ付きて發展し行くべし▲七赤　朝口は思ふ樣ならざれども午後は大吉なり▲八白　身の下の爲に口を出して辛勞することあるべし▲九紫　あせらずとも前途坦々たる愉快の域に出づ

幕末秘帖　狂怒乱心

講談

(13)

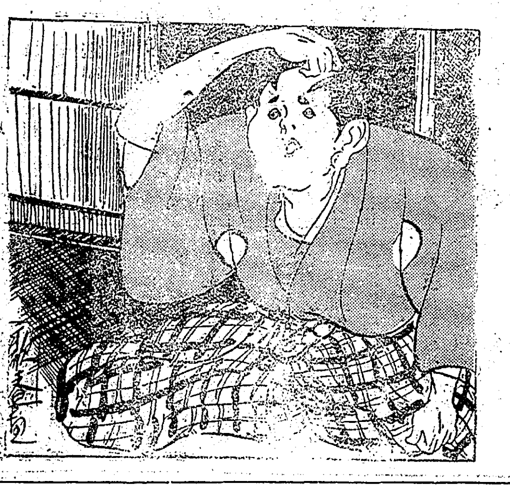
渡邊默禪作
宮野耿春畫

明白に謎――謎のやうな疑問が解けたが甚だ評判の惡い、平馬は口を極めて攻撃するのだ先刻から默つて謹聽してゐた雪江は内心非常の不平である。

「成程、妙な尋ねと思ふのも道理ちや」

と籌子は頷いて

「有樣はの、平馬どの」



を雪江から聽取つた顛末を遺もなく語り博へると平馬はウト氣に光る瞳をら〳〵させて

「へ氣!」

とばかり呆れてゐる

「の、そんな譯であるのに只打棄てゝ置いては禮儀にもとるし、雪江は素よりのこと、當家に取つても不本意のこちやで、一つれ乖から、家老衆へ申し談じてその梅とやらへ然るべく御禮を致し呉るゝやうにそれがお頼みじや」

「はッ、畏りまして御座りまする」

と平馬はお請をしてから

「いや驚き入つた腕前、お話を承はりましたゞけでも手に汗を握るくらゐ、味の好いこともござりましたな、尋常のぐわえん風情はなか〳〵以て左樣な離れ業を會得ることまでは御座らん、大方それは何でござりませうかな、天下に名ある劍客の、但し旗本の次男か三男なぞが浮世を茶化して道樂にぐわえんの群に……乾と左樣な譯でござりませう、御存知のソレ、松平長七郎殿、但しは名奉行といはれました根岸肥前殿彼の樣な例も御座りますれば、ぐわえんちやと申して侮る譯には參りません、いや鮮かなもので」

急に風が變つて來た。勃々とするのを抑へてゐた雪江は、此處ぞと飛出して突然揚足を取つた

「左樣でございますとも、失禮ながら彼の梅さまばかりはそんなはしたない者とは人品が違ひますわ」

「む、爾であらう〳〵」

「第一、彼の殿御振を御覽に入れたらございますわ、お色に玻璃のやうに透徹るほど白くつてキメは蟲眼鏡でなければ見えないくらゐこまやか、お髮なんぞはまア其麽でせう、一本々々植ゑたかと思ふばかり生際がちやんと揃つて、濡鴉で染めたやうにお黑うございます、それに眼がぱつちりしてゐて鼻がつんとして恰で人形に魂が這入つたやう、すつきりした、しやんとしたそりや眞箇に好い殿御、彼麽お方に黑羽二重お召とお袴をお着せ申したならそれこそ活きた光源氏ですわ」

「たゝそんなに好い男か」

「いかさま」

「それぱかりでは御座いません、お言葉も明晰して親切が籠つて、同情があつてどんなに男らしう御座いませう」

「む、なアる程」

「眞劍勝負をなさる時に、眼を放さず見て居りましたら、斗然と三丈ばかり飛揚りましたわ」

「たや〳〵、そんなに揚つたか、輕いものちや」

「六韜三略、武藝十八般、何でも心得てゐると被仰いましたわ」

「偉いのう」

雪江は思ふさま吹いて遣つた、仇討に大々的の誇張、煙に捲かれた三太夫先生何でもそうか〳〵で通す。

「あら、平馬さま、爺老は今まで散々惡くお消なしなすつた癖に只今のた言葉は何でございます、武士は二枚の舌をお使ひになつても宜しうございますか」

深入させて置いて雪江はくつと捻揚げると、

平馬はへどもど

「むーいや、なに、時と場合でな」苦しい言譯、女中どもは再びどつと笑つた

開店御披露

氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を、經營は大塚肉店故原料豊富、是非一度御試食の程を

・・・女給數名入用・・・

カフエー幸樂
平町六丁目　電五三九番

良品廉賣に勝る商略なし

磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金東京一〇九五六番

確實敏捷は(久)の生命なり

青麻山中風靈藥

定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇

動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す

……是非御試用を勸む……

代理店　平町五丁目角　山野邊藥局

ホシ胃腸藥
胃腸氣痛藥
ホシ胃腸藥
星製胃腸藥
호시위장약

謹告

小生永々休業罷在候處今般左記ノ箇所ニ事務所ヲ設ケ從前通リ辯護士ノ業務ニ從事致候

辯護士　從五位　新妻誠一
事務所　石城郡平町揺槌小路三番地（田町通リ）
電話一六一番

一の井洋食謝恩デー

八月十日ヨリ十月卅一日マデ三ケ月間三回抽籤
抽籤方法毎月廿五日　磐城新聞、常磐毎日新聞、磐城時報紙上立合抽籤ノ上發表
〆切廿八日

高級洋食毎一品　買上券一枚進呈

景品
一等　二本
二等　三本
三等　五本
四等　十本
五等　三十本

美味澤山
洋式宴會
仕出し
一の井　電話二六七番

ヒゲタ醤油
宮内省御用達
九升樽詰
二リットル瓶詰
銚子醤油株式會社

特約店　平町田町　廣瀬支店　電話五四番

教授

裁縫　奥田式及び水引細工
華道　古遠州生花、小原流盛花
茶の湯　裏千家

平町白銀町（平劇場前）
高橋光春
電話六三八番

醫院開始

◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科

平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

內科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。

磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

賣切御禮廣告

先般セイコー抽籤付腕時計賣出中の處御引立に預り全部賣切申候此の段御厚禮申述べ候

各位

三丁目（電話二九番）
大谷時計病院

夜間診療

胃腸
十二指腸虫病
內科專門
內科部

梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
外科專門
外科部

平衛町　松村病院　電話一〇七

國產品普及宣傳
抽籤附大特賣
精工舍製腕時計セイコー

大懸賞額

賞品
一等　金壹百圓（復興債券）五十本
二等　金五十圓（同）百本
三等　金拾圓（同）二百本
四等　金五圓（同）五百本
五等　精工舍製ニッケル丸形机上時計（一個市價一圓八十錢）四萬九千百五十個

賞金總額金拾萬貳千九百七拾圓也（一本も空籤なし）

特約店
會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

外科新設

外科專門　部長　藤本順
診療開始

產科
婦人科　院長　木村寅次郎
從前通り診療

平町新川町
木村醫院
電話一六四番

呪ひの雨に天を仰いで長嘆息

土用明け立秋に入りて尚は降り續く

昨今の雨つゞきに弱れ切つた氷屋

切めて舊盆を樂みに

暖簾を保つ有様

石城郡地方は雨に明け、曇りに暮て太陽を拜まぬ日數旬で遂に立秋を見たが、見るも氣の毒なのは夏の客を相手に暮す各種營業者がある、之を平町市內の氷水營業に見ると今年の屆出者は百十一人（昨年は百八十八）で昨年より尠いが、店が忙しくなる筈の土用入から涼しくなつたので之では商賣にならぬと諦めて營業を思ひ止まつたものが多かつたのに依る。普通氷水營業は六月中旬から秋の彼岸までの期間で、一貫目の氷を五十杯に刻んで一杯五錢に賣り解けや、材料等を差引いても割の惡い商賣ではないが今年の樣に寒くては堪まらない、平町の百十一の營業者中で九分通りは夏の稼ぎを繰返した人で新規は一割位であらうが、道具を新たに造つたとすればその道具代も要るまいといはれる

營業税は屆出と同時に末等一圓三十圓少し高く二圓四十錢を納めさせられこの税金は取り返すとしても商賣は殆んど問題にならない百十一店の中で三分の一は恐らく店を飾り立てたゞ許りで氷を削らぬであらう、三分の一は溶かすために氷を買つたと同樣に一貫目から幾杯賣つたとされよう、殘る三分の一とても今年柄客を吸つたとて知れたものでせめてを舊暦字羅盆を樂み乍ら暖簾を掛けておく有樣である

今後天候回復しても凶作は免れぬ

精々半作位が關の山

石城地方の稻作

天は無情である、最近の天候不順に農民は勿論、天を仰いでその無情に涙してゐる。一般稻作の狀況を見るに稻熱病に續いて冷氣襲來で、ために約一週間前まではでは今年の稻作は豊作とは勿論行かぬが平年作位まではいくものと縣あたりでは觀測してゐたものが今日此頃に至つては全くの悲觀說に變つた。明治三十八年も凶作近くは大正二年も凶作だつたが何れも冷氣襲來に基因したる凶作だつた。今年も同樣な冷氣襲來で土用もあけて立秋となつた、これで所謂殘暑の候となる譯だが稻の成育期には九十度以上の高溫度が二十日以上續かねば勿論減收はまぬがれぬとは專門家の話しでこれからガラリと天候が回復してべら棒に暑くなつても挽回は難しいと言ふ話しである。又普通は一穗に百五十粒位結實するのだが、今年あたりは百粒ぐらいが先づ關の山だらうと觀測されてゐる

文字通り悲慘な雨の石城各濱

船は出れず寢食狀態

船主側の苦心

石城各濱は昨年來不漁續きのため全く文字通りの不況のドン底につき落され四苦八苦の有樣だがこの不況を夏職の鰹漁や海水浴客の吸收で何とか切り拔け樣と各濱もない袖をしぼつて資金を投じ腕すねこして期待してゐたその鰹漁や海水浴客も別項の如く降雨續きの上に波浪高く出漁出來ぬは勿論のこと避暑客もなく三十年か稀有な閑散振りで特に浴場附近の掛茶屋等は店を開いたばかりで一文の收入もなく漁民もまたこれ同樣で品用品の購入どころか鍋釜の類に至る迄、殆んど入質して金に替へ生活を續けてゐるん狀態で中には一家をまとめて夜逃げの餘儀なき破目に陷つてゐる者もあり尙ほこの變態的な天候が續くときは實に七濱漁民の死活に係はる重大な社會問題を惹起するであらうと見られ各濱漁業組合では目下寄々對策を協議中であるが結局低利資金の融通を受け蘇生の途を講ずることになるであらうと

稻作の危機

錦村農會注意

石城郡錦村農會が農家に對する警告として役場門前の揭示板及村內の要所〳〵に左の注意事項を與へた

稻作危機迫る

天候不順に處する稻作の管理法

稻田の除草は全部止める事

稻田に絶對入らぬ樣にする事

稻田の穗孕まで排水し置く事

冷雨又は冷涼なる日には晝夜の別なく灌水する事

晴天には排水し稻田を溫むる事に努力する事

出穗後尚冷涼なる時は結實迄灌水し置く事

注意天候回復すれば必ず稻田に灌する事

錦村農會

石城名所めぐり（八）

今尚ほ古色をのこす

平窪附近の古趾

△蝦夷塚

蝦夷塚は平窪村上平窪の地に横山臺、須釜臺と稱する處あり、何れも廣き臺地にして山續きなり、其の中横山臺には大小の古塚凡そ七八十所々に點在す、世俗之を蝦夷塚と呼び做せども偶々之を發掘せし塚の內部には必ず一個の石柩あり其の大なるものは長さ約七尺幅三尺深さ約三尺、玉石以て之を疊み上は花崗岩の大盤石を以て之を覆ふ、而して其石柩の中には刀劍人骨、曲玉、管玉の類を藏む塚により高貴なるもの粗末なるものありといふ、按ずるに此蝦夷塚にあらずして貴人の古墳なるが如し一說に此地或は國造の遺址ならんといふ當時發掘したる物品は時價約四百圓なりしと

△古館址

平窪村下平窪の東北新城山の頂絶にあり、嶺上擔の處分十四間許り東に突出する處あり、東西五間半南北六間、北に出づる所東西八間、南北廿一間、西に下る十間餘調度馬場に似たる所之れを前門址と爲す、山は絶頂より中分し東面は大字中鹽に屬し西面は大字下平窪に屬す、館主年代不詳又た大字中平窪字古館の丘上、八重垣神社の北にあるもの東西四十八間、南北六十五間、其の東北も亦た平坦の所あり、今は皆鋤て陸田とす、人畑一族相寄る丘勢良維石森山より來り續くて平隰稻田の上に出づ眺め勝あり、小川江其の西南跡をめぐつて東南す、絹谷館址東北に接し大館古城址を午未の閾に望む、小館記に云ふ、岩間二郎隆重此地に地頭たり後は岩間八郎基請は岩城次郎隆衡の線にして岩城隆守の子なり、兄を絹谷四郎秀清といふ、秀清絹谷富士の北に居る、今猶は其の墟趾あり蓋し後醍醐帝の末年、後村上帝の初年に當る

△中鹽館跡

平窪村大字中鹽の北、蘭秀寺の後山、東つゝき熊野祠の山上、東側一側低き所にあり、中鹽十郎隆弼此に居る天正永祿の頭中條平次郎政重此にあり蘭秀寺と開基す、又松久須根寶林寺は一鹽伊庵の開基にして中條氏一族なりといふ、今其地を檢するに熊野神社の東墟平坦西十間、南北八間北に土垣の狀を存す其の東稍々低くして平坦なる所あり東西三十間、南北十二間、土人其の東を呼むで追手前となす、今灌奔地に滿つ、又た熊野神社の西北に權現山あり老松樹四株あり其の下往々石垣の狀あり或は山上城を構ふるあつて其の造を存するものか。

保護者移動で當局の不便

湯本校の現況

石城郡湯本尋常高等小學校最近の兒童住所統計調査によると約四割强の兒童は家庭上の關係から住所が一定せざるもの多く寄留その他炭礦の盛衰に應じてその出入非常に多數で統一上支障少くないとの事で右に關し同校某教員は語る

一体小學あたりでは上級學校と異なり兒童の出入はげしいことは事實ですが當校は炭礦の關係から父兄中地方を廻り働く人が多い關係で近來家庭との聯絡をとることが困難で教師の立場からしてそれ〳〵對策を講じてゐるが隣の入山校などは一層ひどいそうです云々

チョイ〳〵平署に嘘の密告大流行

自動車屋も欺された

奇怪な事件頻發

平町字南町の某飲食店方裏座敷で昨九日午後七時頃數名の一座が車座となり現金賭けの花合をしてゐるとの密告があつたので平署ではスワコソとばかり柴崎刑事以下外勤巡査數名が急行現場に踏み込んだ處賭博處か花合のハの字の形跡も見へないので狐につまれた樣にガッカリした警官隊も來る時の勢に引變へてシホ〳〵と本署に引上げた過般才槌小路の嘘の密告事件以來チョイ〳〵騙されてゐるので刑事連は各れも大憤慨だが何者かの惡戯であらうと見て此の惡戯者を搜查する事になつた尙平町一丁目松崎自動車部に數日前貸切りの自動車二臺を鎌田町の金成醫院まで持つて來いと電話で申込んで來たので此の不景氣の折柄福の神だと言ふので喜こんだ松崎では直ちに二臺の貸切車を差向けたが此れまたまんまと一杯喰はされた事等もあるので平署でも詰らない惡戯者があるので困つた然し密告と言ふ事は嘘だつたからと言つて密告者を一概に責める譯にも行かない本當の惡戯であれば相當考へなければならないが何かの形跡があつたなら假令嘘であつても仕方がないから云々

磐炭爭議の實地檢證

控訴院長等

昨年一月以來二ヶ月餘に亘つて續けられた內郷村磐城炭坑の爭議につき建國會支部事務長を襲擊して亂鬪を演じた日本坑夫組合本部爭議部長高梨二夫、郡山勞働組合長、田中利勝外五十八名に對する暴力行爲と處罰法違反事件はいづれも有罪と決定し大審院において審理中だがこれが實地檢證のため宮城控訴院長豐田七郎氏は受命判事として來郡湯本町松柏館に一泊九日午前十時から現場の調査を行つたが同一行と共に日勞黨中央委員辯護士三輪壽壯氏も同行した

上遠野の火事

石城郡上遠野村大字瀧字河原大平好一から八日正午頃一家不在中屋內より發火し、右家屋及馬舍物置を全燒して零時半鎭火したが原因不明で損害目下取調中

入山採炭會社で第六坑を開鑿

最新式の機械を備へ

採炭能率の增進

湯本町入山採炭株式會社では財界不況時の昨今微動だにせず益々發展の域にあり事業の一大擴張を計劃中の處いよ〳〵來る九月一日より第六坑の開鑿を初める事となつたが向ふ十六ヶ月を以て商品炭の出炭を見る豫定であるが開坑の上は採掘はコールカッター最新式の機械掘りとし搬出は電車を使用する等本邦炭礦中代表的鑛業の諸機械を設備し大いに能率を高める計劃であると

冷藏庫の作料詐欺

重吉捕はる

平町字田町大工職三浦重吉（三五）は去る六月中草野村大字泉崎字前原松本末から冷藏庫を作つてくれと依賴され作料三十八圓を前金で取り上げたまゝ冷藏庫を作る氣配も見えないので末は數回に亘つて督促したが言を左右にするばかりか果ては金なんか受取つた覺はないと白を切り作料三十八圓を騙取した此の程平署に探知され九日午後九時頃猪狩刑事の爲めに逮捕されたが取調の結果前記犯行を自白したが餘罪ある見込で目下取調を進めてゐる

平町の物價

けふの青物市場

平市場に於ける今十日の野菜相場は

△南瓜一貫匁上三十五錢から廿五錢△馬鈴薯上二十錢から十五錢△ねぎ一把五錢から二錢△玉菜一貫匁十三錢△人參一把十錢、牛ぼう一貫匁三十八錢△トマト百匁七十錢、△瓜十錢から三錢△瓜胡十錢に八本から十本△茄子百ヶ四十五錢、桃十錢に對し水密上四ヶ下八ヶ天律上五ヶ下十ヶ以上

近藤醫學博士

坑內を調査

衛生狀態視察

西北大學教授醫學博士近藤已二氏は助手二名を伴へ炭礦坑內衛生視察の爲め來郡磐城、入山炭礦內を視察調査中である

淺野翁講演

十四日平町で

過般中州に於いて開催す筈であつた淺野總一郎翁の思想講演は淺野翁が原町講演後發病歸京したので延期されてゐたが愈々來る十四日午後一時から平町舊石城郡會議事室に於て一大思想の講演會を催す事となつた

滯納税整理

平役場で督促

平町における縣税の滯納者は八日現在にて雜種税二百人税額千三百七十一圓七十九錢營業税百二十二人税額三百六十九圓三十七錢で同日夫れ〳〵督促狀を發したが町税特別税戸數割の滯納者に對しても不日督促狀を發する筈であると

常磐群小炭礦でも結局出炭制限か

大炭礦より慫慂され

關係者協議中

本紙既報の如く常磐炭礦界は未曾有の大不況に遭遇して昨今二十四萬噸といふレコード破りの貯炭を擁し後それを如何打開し善處すべきかに就き焦慮中であるが大勢既に各方面の財界とも窮狀その極に達しゐる現狀とて名案もなく先づ常磐炭礦聯盟常磐礦業會の申し合せにて一割五分出炭制限を斷行しこれが緩和の一策を努めて來たが該申し合の出炭制限には從來植田町地方を中心とする小炭礦が加盟してゐなかつたためその徹底を期する意味において小炭礦を徹底して初期の目的を遂行せんと七日鑛業會代表者の名義にて植田町鳳城、阿部、吉田、伊藤の各炭礦に向つてこれが同意を求めて來たのでこの交渉を受けた各炭礦では如何なる回答を與ふべきかにつき協議を凝らしてゐる

今日の溫度と明日の天候

（小名濱測候所發表）

本日正午の溫度　七十八度四分

明日の天氣　北東の風　曇り

小野田炭礦廢坑

炭層稀薄で

石城郡磐崎村小野田炭礦では豫てより炭層が稀薄となつたので今明日中には廢坑となる模樣であるが現在同坑の從業七百餘名は薄々廢坑を知つてゐるが目下のところ全然不穩の形勢なく至極平靜であるが廢坑後の從業員の成行は各方面から重大視されてゐる

小作米統一

石城郡下の小作納入米は從來極めて不統一であつたゝめ地主小作人の双方が少からず不便不利を招いてゐたので穀物檢查所平支所ではこれが統一につき考究中で今秋納入期までに何とか具体的方法を講ずる筈

紅燈街

▲久本から●●●おひろめした新妓は久松となん申侍んべる淺草仕込みの藝と愛嬌と美貌で賣り出そうとの意氣込みどうぞ幾久しふ……

御中元御贈答には

使つて喜ばれ貰つて重寶な

◎◎◎商品券

三井呉服店

新盆御用提灯―

御注文（御戒名）入ハ

絶對他店ノ追從ヲユルサヌ

品質本位廉價第一ノ

菅ノ澤　寺田提灯店

三丁目　叶加藤提灯店

四丁目　菅野提灯店　電話七一二

鎌田町　加藤提灯店へ

御用命の程御願申上げます

X光線科

外科專門

入院隨意（自炊の便あり）

平南町

上田外科醫院

電話一一二九

優秀なる最新型腕卷時計

クローム側	白金代用側	
十型	十石入　アンクル	七圓五十錢
十型	十五石入上アンクル	拾壹圓
九型	十石入上アンクル	九圓五十錢
九型	十五石入上アンクル	拾三圓
八型	十五石入　アンクル	拾貳圓
八型	十五石極上アンクル	拾五圓
十八金側	（金質保証）	
十型	十石入上アンクル	拾貳圓五十錢
十型	十五石入上アンクル	拾八圓五十錢
九型	十五石入上アンクル	拾五圓
八型	十五石入上ヤンクル	拾七圓

鐵道省御用

平町五丁目（釜屋商店前）

金光堂時計店

電話七三六番

釀造元

銘酒　清世界　吉

石城小名濱町

清水屋

小野晋平

各炭鑛御用達

電話六番